

ムラサキミツボシアツバ

大窪さんからメールでガ(蛾)の写真が送られてきました。2013年10月5日のことです。調べましてムラサキミツボシアツバと同定します。分布は北海道、本州、四国と海外では中国、インドと記載されていますが、肝腎の生態はよく判りません。幼虫がどんな姿で何を食べているのかの記事がなかなか見つからないのです。

実は私も現場でこの固体の写真を撮りました。場所は研修旅行の初日の宿オンネト一の秘湯国民宿舎「野中温泉」の食堂でした。宴席の最中に部屋を飛び回っている時から気になっていました。小さなガですから邪魔になっていたわけではありません。2013年10月2日18時頃と記録しておきます。



ガは夜行性が多くて普通の人は夜の野外体験など滅多にしませんから馴染みは薄いのは仕方ありません。このガでもお判りいただけるように止まっている時は前翅しか見えません。飛んでいる時は後翅も現れてはいますが、羽ばたきが早くて目には止まりません。左写真の展翅状態は人力で広げて展翅板でむりやり整えなければ後翅の様子は判らないのです。ガの行動範囲は広いとは思えませんので、この宿の半径100m範囲の植物のどれかに依存しているには違いありません。ご存知の方は教えてください。



この宿のすぐ近くに雌阿寒岳の登山口がありました。登山道の入口からいきなりアカエゾマツの群落なのです。純林を求めて元気な方々は登りましたが、後期高齢者の筆者は傾斜がきつくなった所で降りてきました。天然林と

してのアカエゾマツは条件の厳しい土地、湿地、蛇紋岩地、溶岩地、火山灰地などでは他の樹木が育たないので純林をつくることになるのです。その意味で支笏湖の表土を剥いで地拵えしたCGC担当の植樹でアカエゾマツを植えたのは正解なのですが、翌日訪問した九州大学の演習林では惨憺たる評価でした。我々が植えたアカエゾマツが伐期に達するのは50年後のことですから、また評価が変わっているかもしれません。

